

第5号

2022年  
2月4日  
(年4回発行)

国立がん研究センターがん対策研究所

# がん情報ギフト かわら版

〈編集・発行〉国立がん研究センターがん対策研究所  
がん情報ギフトプロジェクト事務局

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1 ☎03-3547-5201(ex.1620)

[https://www.ncc.go.jp/jp/d004/donation/ganjoho\\_gift/index.html](https://www.ncc.go.jp/jp/d004/donation/ganjoho_gift/index.html)

## チラシ「もしも、がんになったら」が完成しました！

2022年2月、チラシ「もしも、がんになったら」が、確かながん情報を届けるツールとして、国立がん研究センターのコンテンツに新たに加わりました。

このチラシは主に、いざという時の備えとして「がん情報サービス」や「がん相談支援センター」を知っておいてもらうことを目的に制作されました。

〈どの治療がいいのか〉〈仕事をどうしようか〉あるいは〈家族ががんになったらどうしようか〉など、もしもがんになった時の不安には、“確かながん情報を得られる場”を知っておくことが重要であり、「備え」にもつながります。

「がん情報サービス」は、国立がん研究センターが運営しているウェブサイトです。「確かながん情報が見つかる場」として、がんの症状や検査、治療法、療養中に使える制度など、がんに関連する幅広い情報をお届けしています。また、「がん相談支援センター」は、「誰でも無料できる場」として、全国のがん拠点病院にあります。がん相談の専門家が、相談者に必要な情報を一緒に探していきます。相談は誰でも無料で可能です。

チラシ「もしも、がんになったら」は、がん情報ギフト寄贈図書館、当センター連携企業等へ配布し、市民のみなさまには各機関より入手いただくことになります。なお、がん情報ギフト寄贈館の皆さまには、3月下旬頃に、更新並びに配布用資料として、当チラシを無料でお届け予定です。

\*PDF版はこちらから

[https://ganjoho.jp/public/ga\\_links/brochure/leaflet/moshimo.html](https://ganjoho.jp/public/ga_links/brochure/leaflet/moshimo.html)



A4判 カラー 三つ折チラシ

## チラシの配布先・設置先をご紹介します！

2/14  
募集開始

新たに完成したチラシ「もしも、がんになったら」を様々な方に手にとっていただけるよう、設置していただける場所をご紹介します。

締切後、ご応募いただいた図書館へ、設置数分のセットを一括送付いたします。その後は図書館より、設置していただける各施設へお届けください。送付するセットは、チラシ「もしも、がんになったら」とチラシを立てかける紙製ラックです。

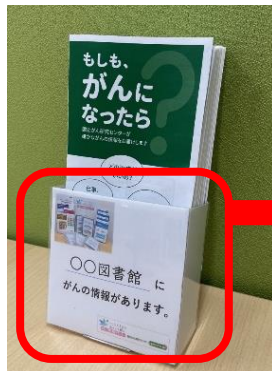
チラシは1セットにつき100枚です。ラックには、「がんの情報があります」のアピールと、図書館名をご記載いただくことで、貴館のがん情報ギフトの利用者の増加につなげることも目的としています。

寄贈館よりお声かけいただき、チラシの設置や配布いただける施設を、下記フォームより明記しご応募ください。

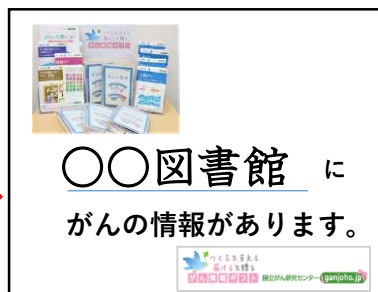
### 設置先イメージ

スーパー、コンビニ、地元企業  
商店街、公民館／博物館、学校  
NPO／公益団体、行政自治体等

どこでも、だれでも、  
広く手に取れることを  
めざしています！



チラシ立掛け用紙製ラック



利用者増加につなげるよう、ラックに館名を入れてアピールしてください。

### 応募手順

- 1) がん情報ギフト寄贈館の担当者様より、設置していただけたら施設に打診していただく。
  - 2) 設置先の施設名、担当者名などをフォームで登録
  - 3) 3月下旬に、国立がん研究センターから応募図書館に、設置数分のチラシとラックを一括送付。その後図書館より、各設置場所へお届けください。
- 応募多数の場合は、調整させていただくことをご了承ください。

### 応募資格

がん情報ギフト寄贈館

### 送付内容

- チラシ「もしも、がんになったら」100部
- チラシ立掛け用 紙製ラック

寄贈館の皆さまには、本件に関する詳細を2月10日に改めてメールさせていただきます。

★ 応募期間 2月14日(月)～3月15日(火)

★ 応募はこちらから \*右記QRコードからもどうぞ！

<https://contact.ganjoho.jp/form/pub/ganjoho/gift-hub>



# がん情報ギフト「結ぶ」事業がスタートしました！

「がん情報ギフト」プロジェクトの開始以来、全国534館の公共図書館に、科学的根拠に基づいた「確かな」「わかりやすい」「役に立つ」がん情報をお届けしてきました。

今年度からは、がん情報ギフト寄贈館と、がん相談の専門家に誰でも、無料で、匿名でも相談できる「がん相談支援センター」を繋ぐことを目的とした「結ぶ」事業をスタートしました。全国区にも応用可能な内容にすべく、東京都、島根県、沖縄県をパイロット地域として、図書館を始め、関係各所の皆様とともに各地域の課題に沿った取り組みを、現在進めています。ブックリストや動画は、完成後、随時当センター下記ホームページ内でも更新していきます。ぜひご注目ください。

がん情報ギフト「結ぶ」事業HP

<https://www.ncc.go.jp/jp/icc/cancer-info/project/pub-pt-lib/20211129171521.html>



## 東京都での取り組み

### がん相談支援センター長に聞く「人生に向き合うブックリスト」作成

「人生に向き合う」をテーマに、各病院のがん相談支援センター長が大切にしたい本を選定。今までのこと、これからのこと、大切にしたいことを考えるきっかけとなるようなリストを作成しています。

## 島根県での取り組み

### 動画「信頼のおけるがん情報を見つけよう」制作

図書館から地元診療所、拠点病院、がん情報サービスの確かな情報へとつながっていけることを紹介する動画を制作。「全県版」は島根県公式YouTubeチャンネル「しまねっこCH」に掲載されました。現在、隠岐の島町、海士町、西ノ島町の各バージョンを制作中です。



## 沖縄県での取り組み

### 「がん情報ギフト ミニ」の寄贈

沖縄県立図書館、琉球大学病院がんセンターと協力し「がん情報ギフトミニ」の寄贈を開始しました。「がん情報ギフトミニ」は、スペースの都合で通常の「がん情報ギフト」を設置できない小規模な図書館にもギフトセットを活用していただけるよう、閲覧用冊子のみのコンパクトな構成となっています。「がん情報ギフト」の寄贈を受けていない県内の公共図書館を対象に募集を行い、昨年11月下旬、受入れ希望のあった6館へ寄贈しました。

## 「図書館とがん相談支援センターとの連携WS」 が開催されました！

2021年11月13日、図書館とがん相談支援センターとの連携ワークショップ「いつでも、どこでも、だれでもが、がんの情報を得られる地域づくりの第一歩（2021）」が、Zoomウェビナーにて開催されました。

2015年度に発足した当ワークショップは、公立図書館とがん相談支援センターの新たな連携や活動状況を広く紹介し、各地域での住民を対象にした医療・健康情報の連携に関する課題等について話し合う場を設け、取り組みをさらに推進する機会として開催しています。当日は、図書館関係者、医療関係者、行政関係者を含めて総勢126名が参加しました。

はじめに、国立がん研究センターがん対策研究所事業統括若尾文彦が開会挨拶。八巻知香子室長（国立がん研究センターがん対策研究所）による本ワークショップ企画意図の説明後、今回のテーマに関するがん相談支援センター側、図書館側からの講演に移りました。

最初の講演は、「図書館&がん相談支援センターの持続可能な「連携」を考える」と題して、琉球大学病院がんセンター増田昌人センター長。がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターによる図書館との連携の始め方について詳述しました。続いて、浦安市立図書館 柚木聖さんが「公共図書館から見た健康医療情報サービス」と題して講演。健康情報の提供における公共図書館の利点と課題について語りました。また、医療機関との連携に際しては目的の相互理解と互いに負荷をかけ過ぎないことの重要性を指摘。さらに浦安市での健康増進課、公民館、図書館での連携イベントの事例も紹介されました。

各地の取り組みとして3地域から報告。〈愛媛県宇和島市〉の取り組みとして、宇和島市立中央図書館の大塚美智子さんと市立宇和島病院の川中真紀さんが発表。宇和島市立中央図書館と市立宇和島病院がん相談支援センターとの連携事業について、企画立案の背景や経緯、課題、さらに今後の展望について熱く語られました。

続いて〈島根県隠岐の島町〉。隠岐の島町図書館の住田美津子さんと隠岐保健所の川畑裕子さんから、連携のきっかけとなった「認知症」に関する展示について紹介されました。展示に至るまでの背景、展示状況、連携の継続に必要な不可欠の要素などが説かれました。

最後は〈沖縄県〉の取り組み紹介。沖縄県立図書館の崎山理沙さんより、沖縄県立図書館におけるがん情報提供に関する取り組みについて詳説。ワークショップ当日、丁度、粟国村で実施されていた「空飛ぶ図書館」の会場より、沖縄県立図書館 上原望生さんがその様子をオンラインで生中継。琉球大学病院がんセンター増田昌人センター長より、「私たちも2012年から連携してやってきておりますので、相互理解もかなり進みました。さらにコミュニケーションを密にとって進めていくことが大事であることを実感しております」と語られました。  
（\*次頁へ続く）



続いてパネルディスカッションを実施。これまでの発表を踏まえ、参加者からチャットで多数寄せられた質問・疑問に答えるスタイルで展開しました。

最後にクロージングとして、当ワークショップ初回時の企画段階からご協力頂いてきた慶應義塾大学 田村俊作名誉教授より、継続的にがん相談支援センターと図書館の対話が進むことへの期待が述べられ、終了しました。



パネルディスカッション時の様子

## 「巡回展示」を全国で展開しています！



海士町中央図書館〈島根県〉（2021年11月開催）

昨年10月より、「がんを身近に考える」図書展示キットを、全国の図書館にて巡回させています。この取り組みは「巡回展示」と称し、「がん情報ギフトプロジェクト企画（正力厚生会支援）」として実施しています。

展示キットは、がんの患者さんが直面する食事、就労、経済面などの生活上の課題について、4つのシナリオをもとに選書されています。

### 巡回展示を行った館から感想も寄せられています！

身近に闘病中の方がいらっしゃる方、患者ご本人が熱心に見ていらっしゃいました。カウンターにそれぞれのご事情などを話していかれる方もありました。これまで健康教育につながる取り組みは、保健師などに相談しながら独自に取り組んできましたが、このような企画は、図書館の情報発信として自信をもって提供することができるため、機会がありましたら、ぜひ今後も参加させていただきたいと思えます。

桑名市立長島輪中図書館〈三重県〉

### ▶今後の開催予定（2022年2月～2022年4月）

2022年2月	潮来市立図書館（茨城県）・福岡市総合図書館（福岡県）・富士見市立中央図書館（埼玉県）・臼杵市立臼杵図書館（大分県）
2022年3月	内子町図書情報館（愛媛県）・春日市民図書館（福岡県）・はつかいち市民図書館（広島県）・宇佐市民図書館（大分県）
2022年4月	横手市立平鹿図書館（秋田県）・猪名川町立図書館（兵庫県）・岸和田市立図書館（大阪府）・志摩市立図書館（三重県）・北九州市立中央図書館（福岡県）

### 編集後記

「がん情報ギフト」プロジェクトは、今年度は寄贈500館達成、「結ぶ」事業のスタート、巡回展示の全国展開など、皆様のお力を賜りまして活動の幅を着実に広げています。紙面2面掲載のご応募も、スタッフ一同、心よりお待ち申し上げます。